

## ◆ 大田都税事務所長賞 ◆

「未来への貯金」

大田区立蓮沼中学校 第三学年 篠崎 美結

「税金とは。」作文を書こうとしたときにまずこの疑問が出てきた。私はこれを機に税金について色々と考えてみた。「自分自身が払ったことがあるものは何か。」浮かんでくるのは消費税くらいだった。しかし、税について、調べてみると自分が思っていたよりもたくさんの方に税金が払われ、使われていた。

「税金って何ですか。」皆さんはこう質問されたらどう答えるだろう。私が税金を日常生活で感じるのはいざという時に買った分より少し値段が高くなっていたり、値札に「税込み」や「税抜き」と表示されていたりするときだった。

そもそも日本には約五十種類の税金がある。私達が払った税金は学校の設備、教科書やゴミ収集、予防接種など様々なことに使われ、調べたらキリがないくらいだった。そう考えると「もし私達の町に税金がなかったら。」現在税金が使われているものがないと考えると学校の設備にお金をかけられず、教師の数が減り、勉強する所が今よりも少なくなってしまう。また、ゴミの日のお金を払わなければいけなくなる。医療費が高くなり、いざという時に病院へ行く人が減少する。道路の整備がなくなったり、消防車が来ないため消火が行えなかったりするなど税金がなくなったら物を安く買えるという考えがある中で、「もし税金がなかったら。」ということをしっかり考えてほしい。住みにくい町どころか危険な町になっていくだろう。私は調べていて税金の及ぼす影響の大きさに驚いた。日本国憲法第三十条「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」という決まりがあるように納税は義務になるが、義務としてではなく、自分の町と自分の生活のためという考えを持つことが大切だと思った。

また、選挙権を私達はまだ持っていないが、国民が選挙によって選んだ国会議員、市区町村や都道府県の議会議員が話し合っただけで税の使い道を決めている。納税金について予算案を出し、決定するまでにもたくさんの人を通すなど時間がかけていた。私達も税金や国のことについて知っていくことで政治に関わっていると思った。

そして私達の住む町での予算額から一番多く使われているのは高齢者の方や障がいのある方への福祉金だと知った。私達が高齢者になる頃にも税金という制度があったら自分や他の人へのための未来への貯金だと思って税金を払っていきたくと思った。

私が今回知ったことは税金についてのごく一部だと思う。「税金とは。」という最初の疑問から始まり、身近な税について知れた。税金は私達の生活と関わりが深い。私達が払った分だけ、自分達の町も充実する。自分のしたことが巡り巡って自分に返ってくるように町と税金と私達は循環していると思う。そして、これからも豊かで安全な社会づくりに貢献していきたい。